

予防技術検定模擬テスト

— 解説付 —

No.52

【共通】問1 住宅で用いられる防災用の機器に関する次の文を読み、消防法令上誤っているものを1つ選べ。

- (1) 住宅用防災機器には、住宅用防災警報器、住宅用防災報知設備及び住宅用消火器の3種類がある。
- (2) 住宅用防災警報器とは、住宅における火災の発生を未然に又は早期に感知し、及び報知する警報器をいう。
- (3) 住宅用防災報知設備とは、住宅における火災の発生を未然に又は早期に感知し、及び報知する火災報知設備をいう。
- (4) 住宅用消火器とは、消火器のうち、住宅における使用に限り適した構造及び性能を有するものをいう。

【消防用設備等】問1 特定防火対象物（地下街及び準地下街を除く）の地階で地下街と一体を成すものとして消防長等が指定したものに設置される次の消防用設備等のうち、設置基準の適用に当たって地下街の部分であるものとみなされないものを1つ選べ。

- (1) スプリンクラー設備
- (2) 屋内消火栓設備
- (3) 自動火災報知設備
- (4) ガス漏れ火災警報設備

【消防用設備等】問2 水噴霧消火設備に関する次の文を読み、消防法令上誤っているものを1つ選べ。

- (1) 水噴霧消火設備を政令別表第一に掲げる防火対象物の道路の用に供される部分又は駐車のために供される部分に設置するときは、総務省令で定めるところにより、有効な排水設備を設けなければならない。
- (2) 高圧の電気機器がある場所においては、当該電気機器と噴霧ヘッド及び配管との間に電気絶縁を保つための必要な空間を保たなければならない。
- (3) 水源は、総務省令で定めるところにより、その水量が当該防火対象物の火災を有効に消火することができる量以上の量となるように設けなければならない。
- (4) 水源に連結する加圧送水装置は、点検に便利で、かつ、火災の際の延焼のおそれ及び衝撃による損傷のおそれが少ない箇所に設けなければならない。ただし、保護のための有効な措置を講じたときは、この限りでない。

【防火査察】問1 立入検査及び違反処理に関する次の記述のうち、適切でないものは次のうちどれか。

- (1) 違反処理の処理区分は、警告、命令、認定の取消し、告発、過料事件の通知、代執行及び略式の代執行がある。
- (2) 消防法第4条第1項（以下「法」という）に規定する質問権は、正当な理由なくして陳述しない者があっても、罰則で実効性を担保していない。

(3) 消防署長が、法第4条第1項に基づき火災予防のために必要があるので、関係者に対し資料提出命令を発動した場合は、標識の設置等の公示をしなければならない。

(4) 法第4条第1項に基づき実施した立入検査結果については、判明した消防法令違反等については、原則として、違反改修の履行義務者に対し文書（通知書）で通知する。

【防火査察】問2 違反処理に関する記述のうち、適切でないものは次のうちどれか。

(1) 消防法（以下「法」という）の罰則は、命令違反を前提とする罰則規定と規定違反に対する直接の罰則規定の2つに性格により分類できる。

(2) 法第5条の3第2項の略式の代執行とは、行政代執行法に基づく正式の代執行において行われる戒告及び代執行令書による通知の手続を省略した手続である。

(3) 法第8条の2の3第5項違反の過料については、行政秩序を維持する目的から科せられる行政上の罰金であって、過料に処せられるべき者の住所地の地方裁判所に対する告発をもって対応する。

(4) 告発とは、告訴権者及び違反者以外の第三者が、捜査機関に対し、違反事実（消防法令違反）を申告して、処罰を求める意思表示である。

【危険物】問1 次の記述の□の箇所に入る数値の組み合わせとして正しいものはどれか。

「引火点を測定する試験としてセタ密閉式引火点測定器を用いるのは、タグ密閉式引火点測定器により引火点が□℃以上□℃以下の温度で測定され、かつ、当該引火点における試験物品の動粘度が□cmストークス以上である場合である。」

- (1) 21、70、1
- (2) 40、100、20
- (3) 0、80、10
- (4) 70、130、100

【危険物】問2 次のうち、第4類第1石油類を収納することができない運搬容器はどれか。

- (1) プラスチックドラム（60ℓ）
- (2) 金属製容器（20ℓ）
- (3) プラスチック容器（6ℓ）
- (4) 金属製ドラム（200ℓ）

- (4) ハムスターに咬まれた場合、アナフィラキシーショックが起こることが報告されているので、呼吸状態やバイタルサインに注意を払う必要がある。
- (5) 吸引は無益だけでなく、逆に組織損傷を引き起こす危険性もある。

問3 答 (1)、(2)

- 解説 (1) 結核———空気感染
 (2) 麻疹———空気感染
 (3) 带状疱疹———接触感染
 (4) インフルエンザ——飛沫感染
 (5) 溶連菌性咽頭炎——飛沫感染

予防技術検定模擬テスト

〔共通〕

問1 答 (1)

- 解説 (1) 消防法施行令第5条の6。住宅用消火器は含まれていない。
 (2) 消防法施行令第5条の6第1号。
 (3) 消防法施行令第5条の6第2号。
 (4) 消火器の技術上の規格を定める省令第1条の2第2号。

〔消防用設備等〕

問1 答 (2)

解説 根拠条文は消防法施行令第9条の2。防火対象物の地階が地下街と接続されている場合に、それらが一体的な危険性を有するものとして設置し維持されるべき消防用設備等が列記されている。同条には、屋内消火栓設備でなく、非常ベル及び放送設備等があげられている。なお、ガス漏れ火災警報設備は、静岡ゴールデン街ガス爆発事故(昭和55年、死者14人)を契機として同条に盛り込まれた。

問2 答 (3)

- 解説 (1) 消防法施行令第14条第2号。
 (2) 同条第3号。
 (3) 同条第4号。「当該防火対象物」でなく、「防

護対象物」。なお、「防護対象物」とは「当該消火設備によって消火すべき対象物をいう。」とされている(同条第1号)。

(4) 同条第5号。

〔防火査察〕

問1 答 (3)

- 解説 (1) 立入検査マニュアル及び違反処理マニュアルにより適切である。
 (2) 法第44条第1項第2号により適切である。
 (3) 法第4条には標識の設置等の公示する義務はないので不適切である。
 (4) 立入検査マニュアルにより適切である。

問2 答 (3)

- 解説 (1) 違反処理マニュアルにより適切である。
 (2) 違反処理マニュアルにより適切である。
 (3) 過料については、刑事訴訟法の適用を受けず、非訟事件手続法の適用を受けることになり、過料に処せられるべき者の住所地の地方裁判所に対し違反事実を証する資料を添付して通知するので不適切である。
 (4) 違反処理マニュアルにより適切である。

〔危険物〕

問1 答 (3)

解説 引火の危険性を判断するための試験は、試験物品の引火点、動粘度に応じ異なる引火点測定器を適用することとされている。
 [参照条文] 危険物の規制に関する政令第1条の6。

問2 答 (1)

解説 危険物の類別、危険等級別に収納できる運搬容器の種類、最大容積等が定められている。第4類第1石油類は危険等級Ⅱとされており、プラスチックドラムに収納することはできない。
 [参照条文] 危険物の規制に関する規則別表第3の2。

改訂 消防昇任試験 1000題

■消防昇任試験問題研究会 編
 B5判 / 414頁
 定価3,000円 (〒315円)



基本的な知識を問う問題を厳選し登載
 出題の意図を正しく理解できるよう
 全問題に解説を付けた最新の問題集!

近代消防社 〒105-0001東京都港区虎ノ門2丁目9番16号(日本消防会館内) TEL 03-3593-1401 FAX 03-3593-1420